

茨城たい肥ナビ！

利用者マニュアル

目次

1 露地栽培向け堆肥ナビ!	1
1-1 露地栽培選択	1
1-2 施肥量入力方法選択	2
1-2-1 作物選択	3
1-2-2 慣行施肥量入力	4
1-3 堆肥情報選択	5
1-3-1 畜種選択	5
1-3-2 堆肥成分入力方法選択	6
1-3-3 堆肥生産者リストから選択する	7
1-3-4 平均値を利用した含有量の入力	8
1-3-5 手入力による堆肥成分値の入力	9
1-3-5-1 手入力による堆肥成分値の入力【鶏(副資材なし)以外の場合】	9
1-3-5-2 手入力による堆肥成分値の入力【鶏(副資材なし)の場合】	10
1-3-6 速効性肥料成分の入力	13
1-3-6-1 既知の速効性肥料成分の入力	13
1-3-6-2 現物中の速効性肥料成分量の分析条件の入力	13
1-4 施肥診断結果	15
1-4-1 窒素代替率ごとの堆肥施用量	20
1-4-2 土づくりを考慮した堆肥施用の考え方	21
1-4-3 連用効果による窒素発現量の推定	24
2 水稲向け堆肥ナビ!	26
2-1 水稲選択	26
2-2 水田情報入力	27
2-2-1 地力診断ありの入力	28
2-2-2 地力診断なしの入力	29
2-2-3 水田情報確認	30
2-3 堆肥情報選択	31
2-3-1 畜種選択	31
2-3-2 堆肥成分入力方法選択	32
2-3-3 堆肥生産者リストから選択する	33
2-3-4 平均値を利用した含有量の入力	34
2-3-5 手入力による堆肥成分値の入力	35
2-4 施肥診断結果	36
2-4-1 手入力による参考値の入力	38

1 露地栽培向け堆肥ナビ!

1-1 露地栽培選択

下記のURLから「茨城たい肥ナビ!」にアクセスすると、下図1.トップページが表示される。露地栽培向け堆肥ナビを利用したい場合は、図中の赤枠で囲んだ「露地栽培向け」の画像をクリックする。

また、図中青枠で囲んだ中の「堆肥生産者一覧はこちら」をクリックすると茨城県内版堆肥生産者リストのページに移動する事も出来る。

URL:https://ibaraki-agri-livestock.jp/taihi_navi/index.php



図1.トップページ

1-2 施肥量入力方法選択

図1で示した「露地栽培向け」の画像をクリックすると、下図2.施肥量入力方法選択画面が表示される。

施肥量を栽培基準から選択したい場合は、赤枠で囲んだ「作物を選ぶ(栽培基準)」ボタンをクリックする。また、作物の慣行施肥量を自分で設定したい場合には青枠で囲んだ「慣行施肥量を入力する」ボタンをクリックする。

トップページに戻りたい場合は、黄枠で囲んだ「戻る」ボタンをクリックする。

なお、共通事項として「ホーム」ボタンをクリックした場合はどのページからでもトップページに戻る。



図2.施肥量入力方法選択画面

1-2-1 作物選択

図2.施肥量入力方法選択画面で「作物を選ぶ(栽培基準)」ボタンをクリックすると、下図3.作物情報選択画面が表示される。

図中の赤枠で囲んだメニューを選択すると作物別情報が表示されるので、選択したい作物名をクリックする。これにより選択された作物情報の一覧が表示される。

選択したい作物情報一覧が表示されたら、施肥設計に使用する目的の箇所の青枠で囲まれた「選択」ボタンをクリックする。

※慣行施肥量入力は選択した方は 慣行施肥量入力を参照(1-2-2)

1

2

3

作物を選ぶ

堆肥を選ぶ

施肥診断結果

栽培する作物をお選びください

ハクサイ

▼

現在表示しているのは『ハクサイ』になります。

	作物名	分類 作型等	総量			基肥			追肥		
選択	ハクサイ	Ⅱ 葉菜類 秋まき栽培（早生）	15	15	15	15	15	15	0	0	0
選択	ハクサイ	Ⅱ 葉菜類 秋まき栽培（中晩生）	20	20	20	15	20	15	5	0	5
選択	ハクサイ	Ⅱ 葉菜類 秋まき栽培（貯蔵）	25	25	25	20	25	20	5	0	5
選択	ハクサイ	Ⅱ 葉菜類 トンネル栽培	20	20	20	20	20	20	0	0	0

※出典：茨城県栽培基準

ホーム

戻る

図3.作物情報選択画面

1-2-2 慣行施肥量入力

図2.施肥量入力方法選択画面で「慣行施肥量を入力する」ボタンをクリックすると、下図4.慣行施肥量入力画面が表示されデータ入力が可能になる。

赤枠で囲まれた基肥(窒素・リン酸・カリ)、追肥(窒素・リン酸・カリ)の6項目に半角数字で全て値を入力し、黄枠で囲んだ「確定」ボタンをクリックする。

なお、総量に関しては基肥と追肥により自動計算される。

入力を取りやめたい場合は、青枠で囲んだ「戻る」ボタンをクリックする。

※以下、これらの入力項目の規制について説明する。

図4.慣行施肥量入力画面

・基肥

窒素

基肥の窒素量を数値(単位はkg、最大4ケタ以内)で入力する。

リン酸

基肥のリン酸量を数値(単位はkg、最大4ケタ以内)で入力する。

カリ

基肥のカリ量を数値(単位はkg、最大4ケタ以内)で入力する。

・追肥

窒素

追肥の窒素量を数値(単位はkg、最大4ケタ以内)で入力する。

リン酸

追肥のリン酸量を数値(単位はkg、最大4ケタ以内)で入力する。

カリ

追肥のカリ量を数値(単位はkg、最大4ケタ以内)で入力する。

1-3 堆肥情報選択

1-2-1の作物選択画面の「選択」ボタンあるいは1-2-2の慣行施肥量入力画面の「確定」ボタンが押されると、堆肥情報の入力画面に移る。以下、堆肥情報の入力方法について説明する。

1-3-1 畜種選択

まず、図5に示す畜種選択画面の赤枠の中から利用したい畜種のボタンをクリックする。鶏ふん由来の堆肥は堆肥中に含まれる副素材の有無で分岐することに留意する。



図5.畜種選択画面

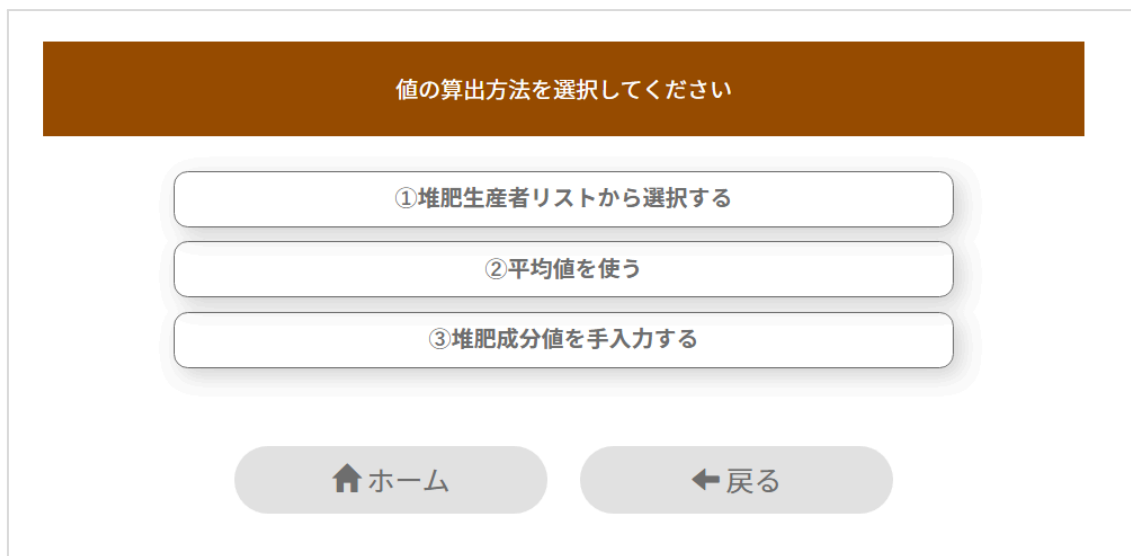
1-3-2 堆肥成分入力方法選択

図5.畜種選択画面で利用する畜種のボタンをクリックすると、図6に示す堆肥成分の入力方法選択画面が表示される。堆肥成分の入力方法として「①堆肥生産者リストから選択する」「②平均値を使う」「③堆肥成分値を手入力する」のいずれかを選び、該当するボタンをクリックする。

「①堆肥生産者リストから選択する」を選択した場合は1-3-3に進む。

「②平均値を使う」を選択した場合は1-3-4に進む。

「③堆肥成分値を手入力する」を選択した場合は1-3-5に進む。



値の算出方法を選択してください

①堆肥生産者リストから選択する

②平均値を使う

③堆肥成分値を手入力する

ホーム

戻る

図6.堆肥成分の入力方法選択画面

1-3-3 堆肥生産者リストから選択する

図6.堆肥成分の入力方法選択画面で「①堆肥生産者リストから選択する」ボタンをクリックすると、下図7.堆肥生産者リスト選択画面が表示される。

図中の緑枠の地域(全域・県北・県央・鹿行・県南・県西)を選択すると、地域別の市町村で生産されている堆肥を抽出できる。

図中の赤枠で囲んだメニューを選択すると堆肥生産者の市町村(堆肥生産場所)が表示されるので、選択したい市町村名をクリックする。これにより選択された市町村内で生産されている堆肥情報の一覧が表示される。

堆肥情報一覧が表示されたら、青枠で囲まれた「選択」ボタンをクリックすると結果が表示される。

図8の黄枠で囲んだバーを左右にスライドさせると表の右側に隠れている堆肥成分値を見ることができる。

畜種「乳用牛」の
堆肥生産者リストから選択してください。

全域

県北

県央

鹿行

県南

県西

市町村で絞り込み

たい肥生産者リスト

選択	No.	氏名・名称 住所 連絡先	副資材	荷姿	配達	散布	成分値（現物）		
							水分（%）	窒素（%）	リン酸
選択	24	坂東家畜ふん尿利用組合 鈴木康之 久慈郡大子町大生瀬630 0295-76-0388	モミガラ	バラ、 袋	○	×	50.1	0.9	0.1
選択	25	頃藤堆肥生産組合 石井慎一郎 久慈郡大子町頃藤6259 0295-74-0721	モミガラ、オガクズ	バラ	○	×	60.3	0.9	0.1
選択	26	大子町役場施設 堆肥生産プラント 久慈郡大子町高柴4313 0295-76-0774	モミガラ、木炭	バラ、 袋	○	×	49.8	1.9	3.1

図7.堆肥生産者リスト選択画面

選択	231	デイリー・ヤマト 野口靖之（保） 坂東市逆井5388-1 0280-87-4982	オガクズ、モミガラ	バラ	○	×	45.9	0.8
選択	284	（株）茨城県中央食肉公社 環境施設課 東茨城郡茨城町下土師字高山1975 029-292-6811	牛、 豚の未消化物等	バラ	○	×	39.5	2.9

◀ ▶

🏠 ホーム

◀ 戻る

図8.堆肥生産者リスト選択画面2

1-3-4 平均値を利用した含有量の入力

図6の堆肥成分の入力方法選択画面で「②平均値を使う」を選択した場合、図9に示す堆肥成分平均値の選択画面が表示される。

ここでは、利用する堆肥の種類(製造方法別)を選択し、該当するボタンをクリックする。なお、窒素、リン酸、カリの現物堆肥中の平均含有率のデータを表1に示す。

	窒素	リン酸	カリ
乳用牛 (全体)	1.0%	0.8%	1.0%
乳用牛 (堆肥舎)	0.8%	0.7%	0.6%
乳用牛 (開放型)	1.4%	1.2%	2.1%
乳用牛 (密閉型)	1.0%	0.7%	1.0%

図9.堆肥成分平均値の選択画面(乳用牛の例)

表1 現物堆肥中の平均含有率データ(現物%)

畜種	窒素	リン酸	カリ
乳用牛(全)	1.0	0.8	1.0
乳用牛(堆肥舎)	0.8	0.7	0.6
乳用牛(開放型)	1.4	1.2	2.1
乳用牛(密閉型)	1.0	0.7	1.0
肉用牛	1.0	1.2	1.1
豚(全)	2.3	3.5	1.7
豚(堆肥舎)	1.7	2.7	1.3
豚(開放型)	2.7	4.7	2.2
豚(密閉型)	3.3	4.4	2.3
採卵鶏	2.2	4.8	2.8
ブロイラー	2.5	2.8	2.4

1-3-5 手入力による堆肥成分値の入力

図6.堆肥成分の入力方法選択画面で「③堆肥成分値を手入力する」を選択した場合、図10に示す現物中全含有量の入力方法選択画面が表示される。

1-3-1の畜種選択画面にて鶏(副資材なし)以外の畜種を選択した場合は1-3-5-1に進む。

1-3-1の畜種選択画面にて鶏(副資材なし)を選択した場合は1-3-5-2に進む。

図10は、堆肥成分の入力方法選択画面のスクリーンショットです。画面の上部には、3つのステップが示されています：1. 作物を選ぶ、2. 堆肥を選ぶ、3. 施肥診断結果。ステップ2「堆肥を選ぶ」が現在表示されている画面です。

画面の中央には、畜種「乳用牛」の窒素、リン酸、カリの各現物中全含有率の堆肥成分値を手入力しますという指示があります。その下には、窒素、リン酸、カリの各含有率を入力するよう促されています。

画面の下部には、2つの入力方法が提示されています。左側は「既知の速効性肥料成分量を入力(窒素、リン酸、カリ)」とあり、右側は「現物中の速効性肥料成分量の分析条件を入力」とあります。これらの2つの入力方法が、赤い枠で囲まれています。

画面の最下部には、「ホーム」と「戻る」のボタンがあります。

図10.現物中全含有量の入力方法選択画面(乳用牛の例)

1-3-5-1 手入力による堆肥成分値の入力【鶏(副資材なし)以外の場合】

図10の現物中全含有量の入力方法選択画面で「窒素、リン酸、カリの各現物中全含有量を入力」「既知の速効性肥料成分量を入力(窒素、リン酸、カリ)」「現物中の速効性肥料成分量の分析条件を入力」ボタンをクリックすると、次の堆肥成分の入力へ移る。

図10の選択画面にて「既知の速効性肥料成分量を入力(窒素、リン酸、カリ)」「現物中の速効性肥料成分量の分析条件を入力」を選択した場合は1-3-6に進む。

なお、堆肥成分の入力方法は1-2-2の入力方法と同じであるためここでは説明を割愛する。

1-3-5-2 手入力による堆肥成分値の入力【鶏(副資材なし)の場合】

図5.畜種選択画面で「鶏(副資材なし)」を選択し、図6.堆肥成分の入力方法選択画面で「③堆肥成分値を手入力する」を選択した場合、図11に示す現物中全含有量の入力方法選択画面が表示される。図中赤枠に示した入力方法の中から所望の入力方法を選択し、該当するボタンをクリックする。

1 2 3
作物を選ぶ 堆肥を選ぶ 施肥診断結果

畜種「鶏(副資材なし)」の
窒素、リン酸、カリの各現物中全含有率の堆肥成分値を手入力します

窒素、リン酸、カリの各含有率を入力

現物中

全窒素含有率及び水分率がわかる場合

全窒素含有率がわかり、水分率が不明な場合

乾物中

全窒素含有率及び水分率がわかる場合

全窒素含有率がわかり、水分率が不明な場合

速効性成分量で入力

既知の速効性肥料成分量を入力(窒素、リン酸、カリ)

現物中の速効性肥料成分量の分析条件を入力

ホーム 戻る

図11.現物中全含有量の入力方法選択画面(鶏(副資材なし)の例)

鶏(副資材なし)を選択した場合の窒素含有量の入力方法について、以下に示す。

【現物中/乾物中の全窒素含有率及び水分率がわかる場合】

図11.現物中全含有量の入力方法選択画面で「全窒素含有率及び水分率がわかる場合」を選択した場合、図12に示す現物中の全窒素含有率及び水分率入力画面が表示される。赤枠で示した入力欄に0～100%の範囲で入力し、青枠の「現物中全含有率で入力」「速効性肥料成分で入力」「速効性肥料成分量の分析条件を入力する」から所望の入力方法をクリックし、次の堆肥成分の入力へ移る。

1 2 3
作物を選ぶ 堆肥を選ぶ 施肥診断結果

畜種「鶏（副資材なし）」の
現物中の窒素全含有率および水分率を入力してください。

窒素 (%)
0.0

水分 (%)
0.0

現物中全含有率
で入力

速効性肥料成分
で入力

速効性肥料成分量
の分析条件を入力する

ホーム 戻る

図12.現物中／乾物中の全窒素含有率及び水分率がわかる場合の入力方法選択画面

【現物中/乾物中の全窒素含有率がわかり、水分率が不明な場合】

図11で「全窒素含有率がわかり、水分率が不明な場合」をクリックすると、図13に示す入力画面が表示される。赤枠で示した入力欄に現物中の全窒素含有率を0～100%の範囲で入力し、青枠の「現物中含量で入力」「速効性肥料成分で入力」「速効性肥料成分量の分析条件を入力する」から所望の入力方法をクリックし、次の堆肥成分の入力へ移る。

図13は、肥料成分の入力方法を選択する画面のスクリーンショットである。画面の上部には、3つのステップが示された進捗バーがあり、ステップ2「堆肥を選ぶ」が現在表示されている。ステップ1は「作物を選ぶ」、ステップ3は「施肥診断結果」である。画面中央には、畜種「鶏（副資材なし）」の現物中の窒素全含有率を入力するよう指示されている。その下には、赤い枠で囲まれた入力欄があり、「窒素 (%)」とラベルされ、値「0.0」が入力されている。この入力欄の下には、青い枠で囲まれた3つのボタンがあり、「現物中含量で入力」、「速効性肥料成分で入力」、「速効性肥料成分量の分析条件を入力する」である。画面の最下部には、「ホーム」と「戻る」のボタンがある。

図13. 現物中／乾物中の全窒素含有率がわかり、水分率が不明な場合の入力方法選択画面

図11の選択画面にて「既知の速効性肥料成分量を入力（窒素、リン酸、カリ）」「現物中の速効性肥料成分量の分析条件を入力」を選択した場合は1-3-6に進む。

なお、堆肥成分の入力方法は1-2-2の入力方法と同じであるためここでは説明を割愛する。

1-3-6 速効性肥料成分の入力

図10・図11の選択画面で、速効性成分量は「既知の速効性肥料成分量を入力(窒素、リン酸、カリ)」「現物中の速効性肥料成分量の分析条件を入力」いずれかを選択。

「既知の速効性肥料成分量を入力(窒素、リン酸、カリ)」を選択した場合、1-3-6-1に進む。

「現物中の速効性肥料成分量の分析条件を入力」を選択した場合、1-3-6-2に進む。

1-3-6-1 既知の速効性肥料成分の入力

速効性肥料成分の入力方法選択画面で「既知の速効性肥料成分量を入力(窒素、リン酸、カリ)」を選択した場合、図14に示す現物中の速効性肥料成分量入力画面が表示される。

ここでは、赤枠で示した入力欄に現物中の窒素の速効性肥料成分量をKg/t単位で入力し、「確定」ボタンをクリックする。

図14.現物中の速効性肥料成分量入力画面

1-3-6-2 現物中の速効性肥料成分量の分析条件の入力

図10・図11の選択画面で「現物中の速効性肥料成分量の分析条件を入力」を選択した場合、図15に示す速効性肥料成分量の分析入力画面が表示される。

入力項目は「分析方法」、「測定値(ppm)」、「希釈倍率」、「溶液量」、「堆肥重量(g)」の5項目で、「分析方法」についてはリスト内から実施した分析法を選択し、他の項目については分析値を手入力する。なお、窒素の速効性肥料成分含量を算出するには、アンモニア態窒素と硝酸態窒素に分けて含量を算出し、合算したものを全窒素の含量としている。

(注意)

- ・アンモニア態窒素のQRフレックスは表示地(NH4)を入力してください。
- ・硝酸態窒素のバックテストはNO3-N値を入力して下さい。

1
作物を選ぶ
2
堆肥を選ぶ
3
施肥診断結果

畜種「鶏（副資材なし）」の窒素、リン酸、カリの
即効性肥料成分量の分岐条件を入力してください。

アンモニア態窒素と硝酸態窒素の分析方法、測定値、希釈倍率、抽出に用いた溶液量、抽出に
用いた堆肥重量を入力してください。

	アンモニア態窒素	硝酸態窒素
分析方法	<div>蒸留法または比色法</div>	<div>蒸留法または比色法</div>
測定値 (ppm)	<div>10.0</div>	<div>10.0</div>
希釈倍率	<div>10.0</div>	<div>10.0</div>
溶液料 (ml)	<div>10.0</div>	<div>10.0</div>
堆肥重量 (g)	<div>10.0</div>	<div>10.0</div>

リン酸の分析方法、測定値、希釈倍率、抽出に用いた溶液量、抽出に用いた堆肥重量を入力し
てください。

	リン
分析方法	<div>蒸留法または比色法</div>
測定値 (ppm)	<div>10.0</div>
希釈倍率	<div>10.0</div>
溶液料 (ml)	<div>10.0</div>
堆肥重量 (g)	<div>10.0</div>

カリの分析方法、測定値、希釈倍率、抽出に用いた溶液量、抽出に用いた堆肥重量を入力し
てください。

※測定値はKの測定値を入力して下さい

	カリ
分析方法	<div>原子吸光法</div>
測定値 (ppm)	<div>10.0</div>
希釈倍率	<div>10.0</div>
溶液料 (ml)	<div>10.0</div>
堆肥重量 (g)	<div>10.0</div>

🏠 ホーム
◀ 戻る
▶ 確定

図15.現物中の速効性肥料成分量の分析条件入力画面

図15の速効性肥料成分量の分析条件入力画面にて入力後「確定」をクリックすると、確認画面が表示されるので、問題が無い場合、そのまま「確定」ボタンをクリックすると結果が表示される。
なお、リン酸とカリの入力画面は窒素と同じであるため、説明は割愛する。

1-4 施肥診断結果

最後まで項目を進めると、図16.露地栽培向け施肥診断結果画面が表示される。施肥診断結果のページは、縦長の表示形式になっており、赤枠で示した選択結果と、青枠で示した施肥診断結果に大別される。

1

2

3

作物を選択

肥料を選択

施肥診断結果

露地栽培向け結果ページです。

畜種「乳用牛」
検討項目「平均値を使う」

栽培基準

No	作物	栽培基準方法等
—	—	—

栽培基準施用量 (kg/10a)

	窒素	リン酸	カリ
基 肥	10.0kg	10.0kg	10.0kg
追 肥	10.0kg	10.0kg	10.0kg
総 量	20kg	20kg	20kg

堆肥情報

	窒素	リン酸	カリ
現物中含有率	1.0%	0.8%	1.0%
速効性肥料成分量	10.0kg/t	10.0kg/t	10.0kg/t
堆肥生産者情報	乳用牛ふん堆肥(全平均)		

※この堆肥の容積量は 500kg/m³としています。

施肥診断結果

1.堆肥施用量

重量(kg/10a)	容積(m ³ /10a)
1,667 kg	3.3 m ³

2.化学肥料施用量(kg/10a)と代替率

	窒素	リン酸	カリ
基 肥	5kg	0kg	0kg
追 肥	10kg	9kg	5kg
堆肥による化学肥料代替率	25%	53%	75%

[] を栽培するにあたり、あなたの入力した堆肥は、10aあたり [1667] kgの堆肥の施用が目安量となります。堆肥の施用だけでは不足する肥料成分について、窒素は [5] kg、リンは [0] kg、カリウムは [0] kgの化学肥料を施肥することで [] の施肥基準を満たすことになります。

・肥料代替率は窒素の基肥の50%代替、リン酸・カリは総施肥量(基肥+追肥)の100%代替を上限としています。
・気象条件、土壌管理等により堆肥由来の肥料成分の肥効が変化する場合があるため、利用する際は作物の生育状況を観察し、追肥量を増減する等、状況に応じて調整を行ってください。

参考：窒素代替率ごとの堆肥施用量と化学肥料施肥量(kg/10a)

総施肥量に対する窒素代替率(%)	堆肥施用量		化学肥料施用量(kg/10a)			備考：過剰な肥料成分(kg/10a)			
	重量	容積	窒素	リン酸	カリ	窒素	リン酸	カリ	
10%	500kg	1.0m ³	基肥	8	6	4	-	0	0
			追肥	10	10	10			
20%	1,000kg	2.0m ³	基肥	6	1	0	-	0	0
			追肥	10	10	8			
30%	1,500kg	3.0m ³	基肥	4	0	0	-	0	0
			追肥	10	7	2			
40%	2,000kg	4.0m ³	基肥	2	0	0	-	0	4kg超過
			追肥	10	3	0			
50%	2,500kg	5.0m ³	基肥	0	0	0	-	1.3kg超過	10kg超過
			追肥	10	0	0			

・窒素代替率を高くすると、リン酸・カリが過剰になることがあります。

堆肥の腐熟が十分に進んでいない場合、窒素肥効の発現が遅れる場合があります。
作期が短い場合は注意して利用しましょう。

堆肥施用に関する参考事項

土作りを考慮した堆肥施用の考え方

施用効果による窒素発現量の推定

結果をメールに送る

印刷する(A4サイズ)

ホーム

戻る

図16.露地栽培向け施肥診断結果画面

<選択結果(栽培基準と堆肥情報)>

図17に露地栽培向け施肥診断結果画面の選択結果部分を抜粋して示す。赤枠で示した「栽培基準」は、選択した作物の栽培基準情報を示し、青枠で示した「堆肥情報」は選択した堆肥の堆肥情報示している。

栽培基準

No	作物	栽培基準方法等
64	コマツナ	

栽培基準施用量 (kg/10a)

	窒素	リン酸	カリ
基 肥	12kg	12kg	12kg

堆肥情報

	窒素	リン酸	カリ
現物中含有率	1.0%	0.8%	1.0%
速効性肥料成分量	10.0kg/t	10.0kg/t	10.0kg/t
堆肥生産者情報	乳用牛ふん堆肥(全平均)		

※この堆肥の容積量は 500kg/m3としています。

図17.露地栽培向け施肥診断結果画面の選択結果部分

<施肥診断結果>

図18に露地栽培向け施肥診断結果画面の施肥診断結果部分を抜粋して示す。施肥診断結果は図中黄枠で示した領域に表示される。

なお、図中黄枠に表示される施肥診断結果は10ℓのバケツに対して5.0kgの堆肥を入れた場合の施肥診断結果である。



図18.露地栽培向け施肥診断結果部分

施肥診断結果を印刷するには、図16の緑枠で示す「印刷する」ボタンをクリックし、さらに「印刷する」ボタン(図19)をクリックするとPDFが表示される(印刷方法は各パソコンやブラウザで異なる為割愛する)。また、結果をメールに送る場合は図16の黄枠の「結果をメールに送る」ボタンをクリックする。その後、図20の入力欄にメールアドレスを入力し送信ボタンをクリックするとPDFファイルが送られる(図21)。

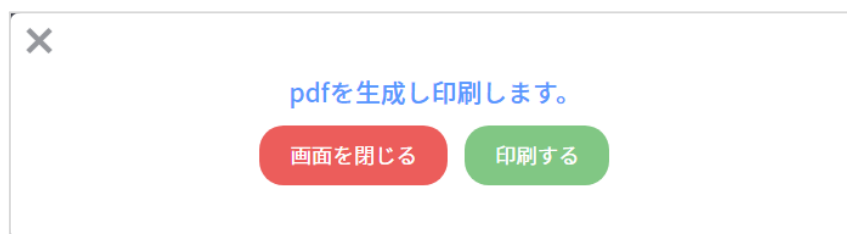


図19.印刷する

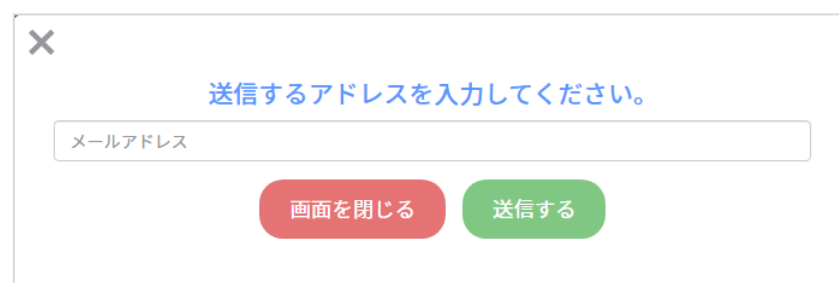


図20.結果をメールに送る



図21.結果をメールに送る2

以上で一連の「露地栽培向け堆肥ナビ！」施肥診断作業は完了となる。

なお、堆肥施用に関する参考事項として以下に示す項目が用意されている。

- 参考:「窒素代替率ごとの堆肥施用量と化学肥料施肥量(kg/10a)」
- (ボタン)「土づくりを考慮した堆肥施用の考え方」
- (ボタン)「連用効果による窒素発現量の推定」

以下、各参考事項について説明する。



たい肥ナビ!-露地栽培向け

露地栽培向け結果ページです。

畜種「乳用牛」 検討項目「平均値を使う」

栽培基準

No	作物	栽培基準方法等
95	エダマメ	(トンネル・露地栽培)

栽培基準使用量 (kg/10a)

	窒素	リン酸	カリ
基肥	8kg	10kg	15kg
追肥	0kg	0kg	0kg
総量	8kg	10kg	15kg

堆肥情報

	窒素	リン酸	カリ
現物中含有率	%	%	%
速効性肥料成分量	kg/t	kg/t	kg/t
堆肥生産者情報	乳用牛ふん堆肥(全平均)		

※この堆肥の容積量は500kg/m³としています。

施肥診断結果

1.堆肥施用量

重量 (kg/10a)	容積 (m ³ /10a)
1,333 kg	2.7 m ³

2.化学肥料施用量 (kg/10a)と代替率

	窒素	リン酸	カリ
基肥	4kg	1kg	3kg
追肥	0kg	0kg	0kg
堆肥による化学肥料代替率	50%	85%	80%

[エダマメ]を栽培するにあたり、あなたの入力した堆肥は、10aあたり[1,333]kgの堆肥の施用が目安となります。

堆肥の施用だけでは不足する肥料成分について、窒素は[4]kg、リンは[1]kg、カリウムは[3]kgの化学肥料を施肥することで

[エダマメ]の施肥基準を満たすこととなります。

- ・肥料代替率は窒素の基肥の50%代替、リン酸・カリは総施肥量(基肥・追肥)の100%代替を上限としています。
- ・気象条件、土壌管理等により堆肥由来の肥料成分の肥効が変化するため、利用する際は作物の生育状況を観察し、追肥量を増減する等、状況に応じて調整を行ってください。

参考:窒素代替率ごとの堆肥施用量と化学肥料施肥量(kg/10a)

●施肥量に対する 窒素代替率	堆肥施用量		化学肥料施用量 (kg/10a)				備考:過剰な肥料成分 (kg/10a)		
	重量	容積		窒素	リン酸	カリ	窒素	リン酸	カリ
10%	500kg	1.0m ³	基肥	7	8	13	—	0	0
			追肥	0	0	0			
20%	1,00kg	2.0m ³	基肥	6	7	10	—	0	0
			追肥	0	0	0			
30%	1,500kg	3.0m ³	基肥	6	5	8	—	0	0
			追肥	0	0	0			
40%	2,000kg	4.0m ³	基肥	5	3	5	—	0	0
			追肥	0	0	0			
50%	2,500kg	5.0m ³	基肥	4	1	3	—	0	0
			追肥	0	0	0			

- ・窒素代替率を高くすると、リン酸・カリが過剰になることがあります。

堆肥の腐熟が十分に進んでいない場合、窒素肥効の発現が遅れる場合があります。

作期が短い場合は注意して利用しましょう。

図22.結果画面の印刷及びメール送付用PDFサンプル

1-4-1 窒素代替率ごとの堆肥施用量

堆肥施用に関する参考事項で、図23に示す様に、施肥診断結果の下に窒素代替率ごとの堆肥施用量と化学肥料施肥量(kg/10a)が表示される。

参考：窒素代替率ごとの堆肥施用量と化学肥料施肥量(kg/10a)

総施肥量に対する 窒素代替率(%)	堆肥施用量		化学肥料施肥量(kg/10a)				備考：過剰な肥料成分(kg/10a)		
	重量	容積		窒素	リン酸	カリ	窒素	リン酸	カリ
10%	500kg	1.0m ³	基肥	18	16	14	-	0	0
			追肥	0	0	0			
20%	1,000kg	2.0m ³	基肥	16	11	8	-	0	0
			追肥	0	0	0			
30%	1,500kg	3.0m ³	基肥	14	7	2	-	0	0
			追肥	0	0	0			
40%	2,000kg	4.0m ³	基肥	12	3	0	-	0	4kg超過
			追肥	0	0	0			
50%	2,500kg	5.0m ³	基肥	10	0	0	-	1.3kg超過	10kg超過
			追肥	0	0	0			

・窒素代替率を高くすると、リン酸・カリが過剰になることがあります。

図23.露地栽培向けの窒素代替率ごとの堆肥施用量画面

1-4-2 土づくりを考慮した堆肥施用の考え方

図16の橙枠の堆肥施用に関する参考事項で「土づくりを考慮した堆肥施用の考え方」を選択した場合、下記①～③に関する情報が表示される。

1 堆肥の施用基準について

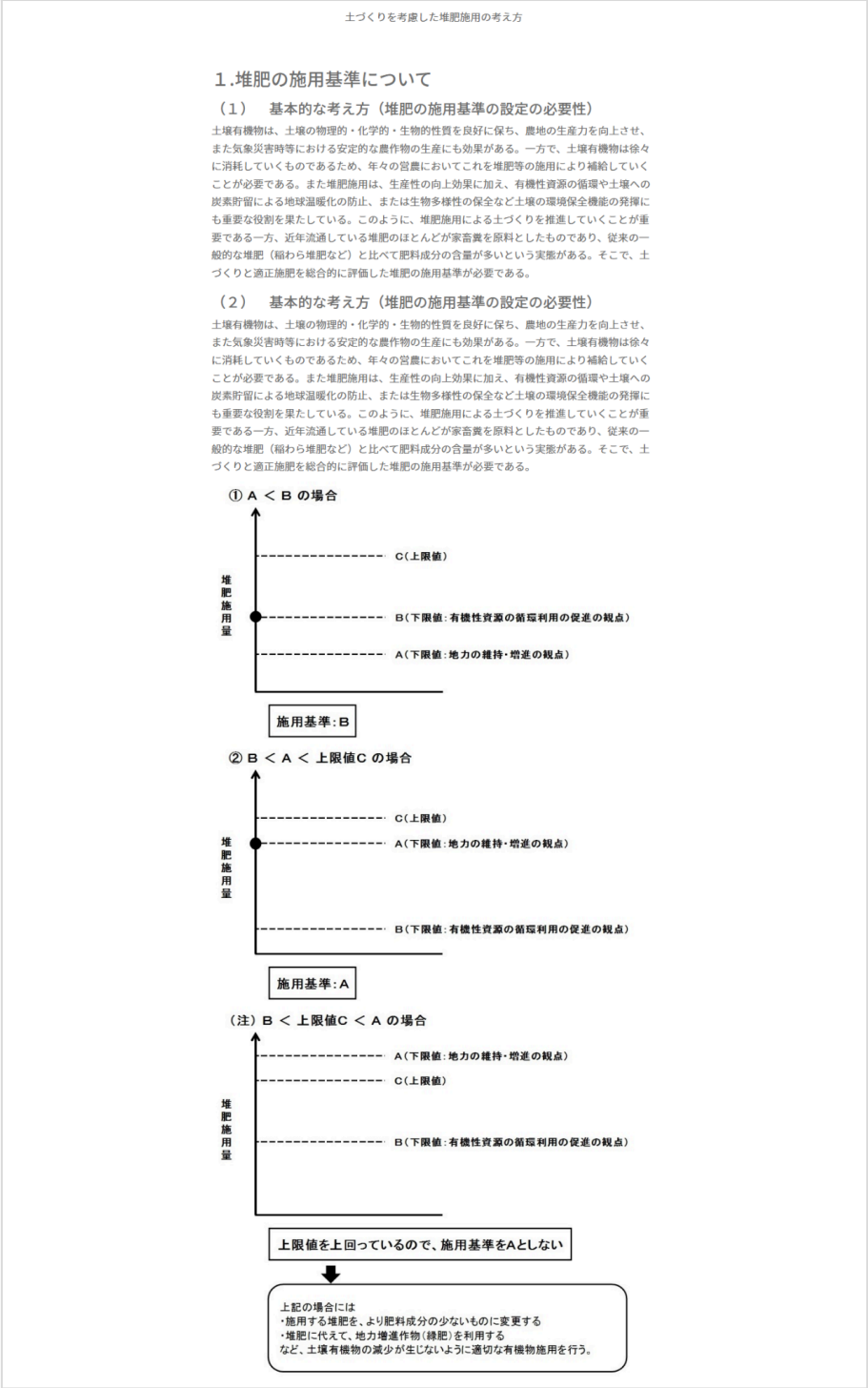


図24.堆肥の施用基準について

2 堆肥の施用下限値の設定について

2. 堆肥の施用下限値の設定について

(1) 基本的な考え方

1) 地力の維持・増進の観点

土壌有機物は、土壌微生物の作用等により分解し、一般的に農耕地土壌では堆肥等有機物の適切な施用が行われない限り減少する。これを踏まえ、地力の維持・増進といった観点から、堆肥の施用基準は、毎年減少する土壌有機物を補給し、土壌有機物含有量の低下を防止するとともに必要な有機物含有量にまで増加させることが可能な水準として設定する。

2) 有機性資源の循環利用の促進の観点

我が国は、食料料の輸入等を通じた肥料成分の輸入が輸出を大きく超過するアンバランスな構造となっており、有機物に由来する大量の肥料成分が農地土壌を含む環境に排出されている。このため、堆肥の施用等により有機性資源に含まれる肥料成分の循環利用を促進することが重要な課題である。このような観点から、堆肥の施用基準は、基肥の窒素量の一定割合以上を堆肥から供給することを基本とする。

(2) 堆肥の施用下限値の具体的な設定の方法

1) 地力の維持・増進の観点

土壌環境基礎調査（基零点調査）等から、堆肥を施用しない場合の年間の土壌炭素（有機物）の減少量を設定し、この土壌炭素減少量を補うために必要な堆肥の量を算出する。

○堆肥施用量の下限値A<1年当たり>

$$A(\text{kg}/10\text{a}) = \frac{\text{年間の土壌炭素の減少量}(\text{kg-C}/10\text{a})}{\text{堆肥の炭素含有率}(\%) / 100}$$

作物	年間の土壌炭素の減少量 土壌の炭素収支(kgC/10a)	
	黒ボク土	非黒ボク土
水稲	33	33
畑作物	290	120
野菜	290	120
果樹	176	52

土壌の炭素収支は、「土壌管理のあり方に関する意見交換会」報告書の値

種類	農 業地域内の主な堆肥の炭素・窒素含有率	
	炭素含有率	窒素含有率
堆肥		
牛ふん堆肥	18.8	1.01
豚ふん堆肥	29.6	2.23
鶏ふん堆肥	21.9	2.27
稲わら堆肥	7.1	0.42
バーク堆肥	19.8	0.46

各畜舎ふん堆肥は、たい肥ナビ（Ver.2.13）の飼養情報データの平均値、稲わら堆肥及びバーク堆肥は、「土壌管理のあり方に関する意見交換会」報告書の値

【参考】地力の維持・増進の観点から必要とされる堆肥の施用量の下限値A<1年当たり>
(各地域内の主な堆肥の平均値から算出)

種類	【水稲】 (堆肥)t/10a	
	黒ボク土	非黒ボク土
牛ふん堆肥	0.2	0.2
豚ふん堆肥	0.1	0.1
鶏ふん堆肥	0.2	0.2
稲わら堆肥	0.5	0.5
バーク堆肥	0.2	0.2

種類	【畑作物】 (堆肥)t/10a	
	黒ボク土	非黒ボク土
牛ふん堆肥	1.5	0.6
豚ふん堆肥	1.0	0.4
鶏ふん堆肥	1.3	0.6
稲わら堆肥	4.1	1.7
バーク堆肥	1.8	0.8

種類	【野菜】 (堆肥)t/10a	
	黒ボク土	非黒ボク土
牛ふん堆肥	1.5	0.6
豚ふん堆肥	1.0	0.4
鶏ふん堆肥	1.3	0.6
稲わら堆肥	4.1	1.7
バーク堆肥	1.8	0.8

種類	【果樹】 (堆肥)t/10a	
	黒ボク土	非黒ボク土
牛ふん堆肥	0.9	0.2
豚ふん堆肥	0.6	0.2
鶏ふん堆肥	0.8	0.2
稲わら堆肥	2.5	0.7
バーク堆肥	1.1	0.3

2) 有機性資源の循環利用の促進の観点

施設基準における基肥窒素量の3割以上を堆肥中の有効窒素（堆肥中の全窒素量×窒素肥効率）で代替するために必要な堆肥の量を算出する。なお、堆肥による基肥窒素の代替率の上限は5割とする。

○堆肥施用量の下限値B <1作当たり>

$$B(\text{kg}/10\text{a}) = \frac{\text{基肥窒素量}(\text{kg-N}/10\text{a}) \times (0.3 \sim 0.5)}{\text{堆肥の窒素肥効率}(\%) / 100 \times \text{堆肥の窒素含有率}(\%) / 100}$$

表 各堆肥の窒素肥効率	
種類	窒素
牛ふん堆肥	30%
豚ふん堆肥	50%
鶏ふん堆肥	70%
稲わら堆肥	20%
バーク堆肥	20%

各畜舎ふん堆肥は、「たい肥ナビ（Ver.2.13）」の値、稲わら堆肥及びバーク堆肥は、「土壌管理のあり方に関する意見交換会」報告書の値

3) 堆肥の施用基準の設定

A及びBのうち、より大きな数値（A及びBの両方を満たす数値）を1年1作の場合の堆肥の施用基準とする。本施用基準が、後述の「堆肥の施用量に係る上限値の設定について」に基づき設定される堆肥の施用上限値を上回る場合は、施用する堆肥をより窒素成分の少ないものに変更するか、又は堆肥に代えてC/N比の大きな地力増進作物（緑肥）を利用するなどし、土壌有機物の減少が生じないように適切な有機物施用を行う。

4) 1年に2作以上の作付けを行う場合の堆肥の施用基準

1年に2作以上の作付けを行う場合は、「地力の維持・増進の観点から必要とされる堆肥の施用量の下限値A」と「作付け作物ごとに算出される有機性資源の循環利用促進の観点からの望ましい堆肥の施用量の下限値Bの合計値」のうち、より大きな数値を1年当たりの堆肥の施用基準とする

図25.堆肥の施用下限値の設定について

3 堆肥の施用上限値の設定について

3. 堆肥の施用上限値の設定について

(1) 基本的な考え方

不適切な堆肥施用は、土壤中の養分の過剰や不均衡、地下水等水質への負荷を拡大することがある。このような堆肥の過度な施用を抑制するために、堆肥の施用上限値を設定する。具体的には、堆肥中の有効肥料成分が施肥基準を超過しない水準とする。

(2) 堆肥の施用上限値の具体的な設定の方法

施用量の上限値は、堆肥中の各有効成分（窒素・リン酸・加里）で各作物の施肥基準における各施肥量を代替する場合に、いずれかの成分が施肥基準量に達した値を堆肥施用量として算出する。

各有効成分（窒素・リン酸・加里）で基準施肥量を代替するための堆肥施用量（暫定）

$$\text{暫定堆肥施用量 (kg/10a)} = \frac{\text{施肥基準成分量 (kg-成分/10a)}}{\text{堆肥の各成分肥効率(\%) / 100} \times \text{堆肥の各成分含有率(\%) / 100}$$

表 各堆肥中成分の肥効率および代替率				
項目	種類	窒素	リン酸	加里
肥効率	牛ふん堆肥	30%	80%	90%
	豚ふん堆肥	50%	80%	90%
	鶏ふん堆肥	70%	80%	90%
	稲わら堆肥	20%	80%	90%
	バーク堆肥	20%	80%	90%
代替率の 上限	各堆肥	基肥の50%	施肥全量 (100%)	施肥全量 (100%)

各家畜ふん堆肥は、「たい肥ナビ (Ver.2.13)」の値。稲わら堆肥及びバーク堆肥は、「土壌管理のあり方に関する意見交換会」報告書の値

○堆肥施用量の上限値C (kg/10a)
＝算出した各有効成分別の暫定堆肥施用量のうち、最も低い値とする

(3) 上限値の留意点

本施用上限値については、下記の点に留意する。

- ・これ以下の施用量であれば環境負荷の増加を引き起こさないという水準ではないこと
- ・標準的な施用量の上限として、本上限値までの堆肥の施用を奨励するものでないこと
- ・規制的に適用される水準ではなく、過度な堆肥の施用を行う農家に対する指導の目安を示すものであること
- ・堆肥中の有効成分の分析値がある場合、それを優先する

「土壌・作物栄養診断マニュアル（茨城県2015）より抜粋」

図26.堆肥の施用上限値の設定について

1-4-3 連用効果による窒素発現量の推定

図16の橙枠の堆肥施用に関する参考事項で「連用効果による窒素発現量の推定」を選択した場合、図27に示す連用効果の入力画面が表示される。

ここでは、以下の手順により、堆肥の連用効果として前年までに施用した堆肥の本作における窒素無機化量を算出することが出来る。

＜連用効果算出手順＞

1. 図中赤枠で示した作付時期から、「夏作(4～10月)」または「秋冬作(11～3月)」のどちらかを選択する。
2. 図中青枠内に年毎の堆肥の種類を「牛ふん堆肥」「豚ふん堆肥」「鶏ふん堆肥」の中から選択して入力する。
3. 図中黄枠内に年毎の堆肥の施用量を現物kg単位で入力する。
4. 図中緑枠内に年毎の全窒素含有率を%単位で入力する。含有率が不明な場合、表2に示す畜種ごとの平均値を用いた自動計算が実施される。
5. 「確定」ボタンをクリックし、推定される窒素無機化量の確認画面に表示される。

1 2 3

作物を選ぶ 堆肥を選ぶ 施肥診断結果

堆肥の連用効果を求めるために、以下の項目を入力して下さい。

夏作 (4月～10月)

冬作 (11月～3月)

	畜種	堆肥施用量 (現物kg)	現物中の全窒素含有率 (%)
1年前	牛ふん堆 <input type="text" value=""/>	10.0 <input type="text" value=""/>	5.0 <input type="text" value=""/>
2年前	牛ふん堆 <input type="text" value=""/>	10.0 <input type="text" value=""/>	5.0 <input type="text" value=""/>
3年前	牛ふん堆 <input type="text" value=""/>	10.0 <input type="text" value=""/>	5.0 <input type="text" value=""/>
4年前	牛ふん堆 <input type="text" value=""/>	10.0 <input type="text" value=""/>	5.0 <input type="text" value=""/>

堆肥の連用により本作で土壌から供給される窒素量は次の通り推定されます。

ここに結果が表示されます

窒素施肥量を決定する際の参考にしてください。
なお、この窒素量は気象条件、土壌管理等により変化するため、利用する際は作物の育成状況を観察し、追肥量を増減する等、状況に応じて調整を行ってください。

🏠 ホーム
◀ 戻る
▶ 確定

図27.連用効果の入力画面

表2.畜種ごとの堆肥の窒素含有率の平均値

	牛ふん堆肥	豚ふん堆肥	鶏ふん堆肥
現物堆肥の全窒素含有率(%)	1.1	2.6	2.5

図27で連用効果を求めるための入力が入力が完了し「確定」ボタンをクリックすると、図28に示す連用効果による窒素無機化量の推定結果画面が表示される。

堆肥の連用により本作で土壌から供給される窒素量は次の通り推定されます。

0.054kg/10a

窒素施肥量を決定する際の参考にしてください。

なお、この窒素量は気象条件、土壌管理等により変化するため、利用する際は作物の育成状況を観察し、追肥量を増減する等、状況に応じて調整を行ってください。

図28.連用効果による窒素無機化量の推定結果画面

なお、窒素無機化量の算出方法は以下の通りである。

- 1) 以下の計算式によって、過去に施用した堆肥の年毎の窒素無機化量を算出する。

$$1 \sim 4 \text{年前に施用した堆肥の窒素無機化量 (kg/10a)} \\ = \text{その年の堆肥施用量 (現物kg)} \times \text{全窒素含有率 (現物\%)} \times \text{窒素無機化率 (\%, 表3)}$$
- 2) 1)で算出された数値(4年分)を合算し、本作における窒素無機化量(kg/10a)として算出する。

表3.畜種・作型別の窒素無機化率(%)

堆肥の種類		牛ふん堆肥	豚ふん堆肥	鶏ふん堆肥
作型	施用年			
夏作	1年前	4.7	12.3	8.3
	2年前	2.7	8.1	4.9
	3年前	1.9	0.5	3.4
	4年前	1.5	0.2	2.7
秋冬作	1年前	2.5	11.9	0.5
	2年前	1.1	4.9	0.2
	3年前	0.8	2.4	0.15
	4年前	0.7	0.2	0.1

2 水稲向け堆肥ナビ!

2-1 水稲選択

茨城たい肥ナビ!のページにアクセスすると、露地栽培向けと同様に下図29.トップページが表示される。水稲向け堆肥ナビを利用したい場合は、図中の赤枠で囲んだ「水稲向け」の画像をクリックする。



図29.トップページ

2-2 水田情報入力

図29.トップページ画面で「水稻向け」をクリックすると、水田情報入力画面が表示される。

水田情報入力は縦長の表示形式になっているので、図30.水田情報入力選択画面の赤枠で囲んだ水田・地力診断部分の「地力診断あり」「地力診断なし」に分けて説明を行う。

なお、入力部分の上には図30の青枠に示すとおり診断条件が表示されている。診断条件②に示すとおり、乾田で堆肥を施用することを想定し、自動計算されるので、湿田で施用する際は0.5t／10a(乾田の施用量の半分)になることに留意されたい。

1 水田情報入力 2 水田情報確認 3 堆肥を選ぶ 4 施肥診断結果

水田情報を入力・選択して下さい。

診断条件

① 目指す品質は標準品質米です。

標準品質米

区分	品質目標
標準品質米	収量510kg/10a 千粒重21.5g 玄米タンパク質含量6.4%

② 水田は乾田で計算します。

参考：牛ふん堆肥施用量
乾田 1t/10a 湿田 0.5t/10a

③ 施肥体系は全量基肥施肥型で計算します。

全量基肥施肥型

水田の地力窒素を診断したことがありますか？

★地力診断あり ○地力診断なし

図30.水田情報入力選択画面

2-2-1 地力診断ありの入力

図30に示すトップページ画面で「地力診断あり」をクリックし、下記の設問へ回答する。「確定」ボタンをクリックし、問題なければ「確定」をクリックすると次の水田情報の確認画面へ移る。

・水田の仮比重は？(g/cm³)

※ 水田の仮比重(参考値): 砂質 1.1g/cm³、質 0.9g/cm³、黒ボク土 0.7g/cm³

・可給態窒素量は？(mg/100g)

・慣行施肥量(リン酸)は？(kg/10a)

・慣行施肥量(カリ)は？(kg/10a)

・牛ふん堆肥の連用年数は？

水田の地力窒素を診断したことがありますか？

☐ 地力診断あり

☒ 地力診断なし

「地力診断なし」の場合あなたの水田の地力は？
 地力を「高い・中程度・低い」から選択して下さい。

☐ 高い

☐ 中程度

☐ 低い

地力	基肥窒素設定量(kg/10a)
	全量基肥型
高い	4.0kg
中程度	5.0kg
低い	6.0kg

慣行施肥量(リン酸)は？ (kg/10a)

10

慣行施肥量(カリ)は？ (kg/10a)

8

牛ふん堆肥の連用年数は？

1年目

🏠 ホーム

◀ 戻る

▶ 確定

図31.水田情報入力選択画面(地力診断あり)

2-2-2 地力診断なしの入力

図30に示す画面で「地力診断なし」をクリックすると、下図32.水田情報入力画面が表示される。
水田の地力を「高い・中程度・低い」から選択し、下記の設問へ回答する。「確定」ボタンをクリックし、問題なければ「確定」をクリックすると図33.水田情報確認画面へ移る。

- ・慣行施肥量(リン酸)は？(kg/10a)
- ・慣行施肥量(カリ)は？(kg/10a)
- ・牛ふん堆肥の連用年数は？

水田の地力窒素を診断したことがありますか？

☐ 地力診断あり

☒ 地力診断なし

「地力診断なし」の場合あなたの水田の地力は？
地力を「高い・中程度・低い」から選択して下さい。

☐ 高い

☐ 中程度

☐ 低い

地力	基肥窒素設定量(kg/10a)
	全量基肥型
高い	4.0kg
中程度	5.0kg
低い	6.0kg

慣行施肥量(リン酸)は？(kg/10a)

10

慣行施肥量(カリ)は？(kg/10a)

8

牛ふん堆肥の連用年数は？

1年目

ホーム

戻る

確定

図32.水田情報入力画面(地力診断なし)

2-2-3 水田情報確認

水田情報入力処理が実行されると、図33に示す水田情報確認画面が表示され、入力内容に誤りがないか確認する。

間違いがない場合「確定」ボタンをクリックすると、図34.畜種選択画面に移る。

水田情報を入力・選択して下さい。

水田情報	
水田の種類は「乾田」になります。	乾田
水田の地力窒素を診断したことは、	地力診断あり
水田の仮比重は、	0.9g/cm ³
可給態窒素は、	3.9mg/100g
施肥体系は、	全量基肥施肥型
目指す品質は、	標準品質米
慣行施肥量(リン酸)は、	10kg
慣行施肥量(カリ)は、	8kg
牛ふん堆肥の連用年数は、	1年目

問題が無い場合は「確定」をクリックして堆肥情報選択に移して下さい。

🏠 ホーム

◀ 戻る

▶ 確定

図33.水田情報確認画面

2-3 堆肥情報選択

2-3-1 畜種選択

図33の確定ボタンをクリックすると、下図34.畜種選択画面が表示される。
赤枠で囲んだ「乳用牛」「肉用牛」ボタンをクリックすると図35.堆肥成分の入力方法選択画面へ移る。

※水田情報確認画面に戻りたい場合は、黄枠で囲んだ「戻る」ボタンをクリックする。

1 水田情報入力 2 水田情報確認 3 堆肥を選ぶ 4 堆肥診断結果

畜種を選択してください

乳用牛 肉用牛

ホーム 戻る

図34.畜種選択画面

2-3-2 堆肥成分入力方法選択

図34.畜種選択画面で利用する畜種のボタンをクリックすると、図35に示す堆肥成分の入力方法選択画面が表示される。堆肥成分の入力方法として「①堆肥生産者リストから選択する」「②平均値を使う」「③堆肥成分値を手入力する」いずれかを選び、該当するボタンをクリックする。

「①堆肥生産者リストから選択する」を選択した場合は2-2-2に進む。

「②平均値を使う」を選択した場合は2-2-3に進む。

「③堆肥成分値を手入力する」を選択した場合は2-2-4に進む。

図35.堆肥成分の入力方法選択画面

2-3-3 堆肥生産者リストから選択する

図35.堆肥成分の入力方法選択画面で「①堆肥生産者リストから選択する」ボタンをクリックすると、図36.堆肥生産者リスト選択画面が表示される。

図中の緑枠の地域(全域・県北・県央・鹿行・県南・県西)を選択すると、地域別の市町村で生産されている堆肥を抽出できる。

図中の赤枠で囲んだメニューを選択すると堆肥生産者の市町村(堆肥生産場所)が表示されるので、選択したい市町村名をクリックする。これにより選択された市町村内で生産されている堆肥情報の一覧が表示される。

堆肥情報一覧が表示されたら、青枠で囲まれた「選択」ボタンをクリックすると結果が表示される。

図37の黄枠で囲んだバーを左右にスライドさせると表の右側に隠れている堆肥成分値を見ることができる。

畜種「乳用牛」の
堆肥生産者リストから選択してください。

全域

県北

県央

鹿行

県南

県西

市町村で絞り込み

たい肥生産者リスト

選択	No.	氏名・名称 住所 連絡先	副資材	荷姿	配達	散布	成分値(現物)	
							水分(%)	窒素(%)
選択	24	坂東家畜ふん尿利用組合 鈴木康之 久慈郡大子町大生瀬630 0295-76-0388	モミガラ	バラ、 袋	○	×	50.1	0.9
選択	25	頃藤堆肥生産組合 石井慎一郎 久慈郡大子町頃藤6259 0295-74-0721	モミガラ、オガクズ	バラ	○	×	60.3	0.9
		大子町役場施設 堆肥生産者リスト		バラ				

図36.堆肥生産者リスト選択画面

選択	180	龍ヶ崎市有機肥料生産組合 高野一寿 龍ヶ崎市貝原塚町2963 0297-62-4530	オガクズ、モミガラ	バラ、 袋	○	○	65.8	0.6	1.1
選択	181	(有) 農業生産法人 若林牧場 稲敷市蒲ヶ山1315-2 029-892-3207	オガクズ、モミガラ	バラ	×	×	64.9	0.7	0.9
選択	182	大木流作堆肥生産組合 守谷市大木3127 090-5429-2231 (我孫子) 090-3479-9570 (遠藤) 090-1663-2020 (結城)	オガクズ、モミガラ	バラ、 袋	○	×	51.6	0.8	1.0

◀ ▶

ホーム戻る

図37.堆肥生産者リスト選択画面2

2-3-4 平均値を利用した含有量の入力

図35.堆肥成分の入力方法選択画面で「②平均値を使う」を選択した場合、図38に示す平均値による含有率選択画面が表示される。

ここでは、利用する堆肥の種類(製造方法別)を選択し、該当するボタンをクリックする。なお、窒素、リン酸、カリの現物堆肥中の平均含有率のデータを表1に示す。

畜種「乳用牛」の
窒素、リン酸、カリの各現物中全含有率の平均値を入力します

	窒素	リン酸	カリ
乳用牛 (全体)	1.0%	0.8%	1.0%
乳用牛 (堆肥舎)	0.8%	0.7%	0.6%
乳用牛 (開放型)	1.4%	1.2%	2.1%
乳用牛 (密閉型)	1.0%	0.7%	1.0%

図38.堆肥成分平均値の選択画面(乳用牛の例)

表1 現物堆肥中の平均含有率データ(現物%)

畜種	窒素	リン酸	カリ
乳用牛(全)	1.0	0.8	1.0
乳用牛(堆肥舎)	0.8	0.7	0.6
乳用牛(開放型)	1.4	1.2	2.1
乳用牛(密閉型)	1.0	0.7	1.0
肉用牛	1.0	1.2	1.1
豚(全)	2.3	3.5	1.7
豚(堆肥舎)	1.7	2.7	1.3
豚(開放型)	2.7	4.7	2.2
豚(密閉型)	3.3	4.4	2.3
採卵鶏	2.2	4.8	2.8
ブロイラー	2.5	2.8	2.4

2-3-5 手入力による堆肥成分値の入力

図35.堆肥成分の入力方法選択画面で「③堆肥成分値を手入力する」を選択した場合、図39の赤枠で囲んだ全ての項目を入力し、黄枠で囲んだ「確定」ボタンをクリックする。

以下、これらの入力規則について説明する。

水分

堆肥に含まれる水分量を数値(単位％、最大8ケタ以内)で入力する。

窒素

堆肥に含まれる窒素量を数値(単位％、最大8ケタ以内)で入力する。

リン酸

堆肥に含まれるリン酸量を数値(単位％、最大8ケタ以内)で入力する。

カリ

堆肥に含まれるカリ量を数値(単位％、最大8ケタ以内)で入力する。

C/N比

C/N比を数値(最大5ケタ以内)で入力する。

1 2 3 4
水田情報入力 水田情報確認 堆肥を選ぶ 施肥診断結果

畜種「乳用牛」の
すべての値を入力して下さい。
(数値入力)

水分 (%)
59

窒素 (%)
1

リン酸 (%)
0.8

カリ (%)
1

C/N比
19

ホーム ◀ 戻る ▶ 確定

図39.堆肥成分の入力方法選択画面

2-4 施肥診断結果

最後まで項目を進めると、施肥診断結果のページが表示される。

下図38.水稲向け施肥診断結果確認画面全体に示す通り施肥診断結果のページは、縦長の表示形式となっているので、赤枠で囲んだ選択情報部分と、青枠で囲んだ診断結果部分が表示される。施肥診断結果を印刷するには、図40の緑枠で示す「印刷する」ボタンをクリックし、さらに「印刷する」ボタン(図41)をクリックするとPDFが表示される(印刷方法は各パソコンやブラウザで異なる為割愛する)。また、結果をメールに送る場合は図40の黄枠の「結果をメールに送る」ボタンをクリックする。その後、図42の入力欄にメールアドレスを入力し送信ボタンをクリックするとPDFファイルが送られる(図43)。

1

2

3

4

水田情報入力

水田情報確認

堆肥を選択

施肥診断結果

水稲向け結果ページです。

畜種「乳用牛」
検討項目「平均値を使う」

水田情報	
水田の種類は「乾田」になります。	乾田
水田の地力窒素を診断したことは、	地力診断あり
水田の仮比重は、	0.9g/cm ³
可給窒素量は、	3.9g/cm ³
施肥体系は、	全量基肥施肥型
目指す品質は、	標準品質米
慣行施肥量(リン酸)は、	10kg
慣行施肥量(カリ)は、	8kg
牛ふん堆肥の連用年数は、	1年目

堆肥情報					
乳用牛ふん堆肥(全平均)					
現物中含有量	水分	窒素	リン酸	カリ	C/N
	59%	1%	0.8%	1%	19

この堆肥の容積量は500kg/m³としています。

施肥診断結果

1.堆肥施用量

重量(t/10a)	容積(m ³ /10a)
0.5 _t	1.0 _{m³}

2.化学肥料施用量(kg/10a)と代替率

	窒素	リン酸	カリ
基肥	1kg	2kg	0kg
追肥	kg	—	kg
堆肥による化学肥料代替率	—%	—%	—%

標準品質米を栽培するにあたり、あなたの入力した堆肥は、10aあたり0.5tの堆肥の施用が目安量となります。堆肥の施用だけでは不足する肥料成分について、窒素は1[kg]、リンは2[kg]、カリウムは0[kg]の化学肥料を施肥することで標準品質米の施肥基準を満たすこととなります。

3.参考（化学肥料の施肥量）

成分	窒素	リン酸	カリ	肥料の施肥量
基肥	14.0 %	28%程度	0%程度	23kg/10a
追肥	17.0 %	—	0%程度	6kg/10a

参考値を更新

結果をメールに送る

印刷する (A4サイズ)

ホーム

戻る

図40.水稲向け施肥診断結果確認画面全体

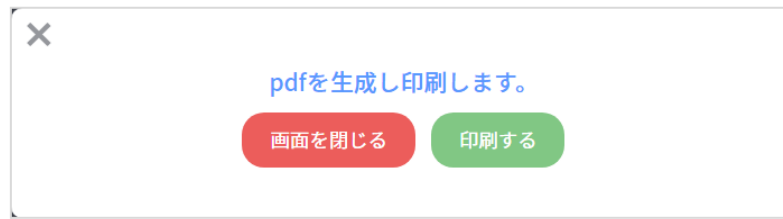


図41.印刷する

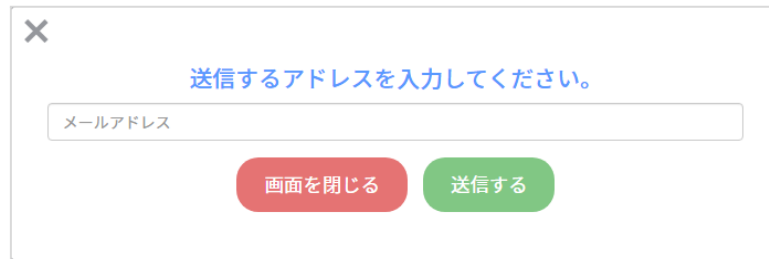


図42.結果をメールに送る



図43.結果をメールに送る2

2-4-1 手入力による参考値の入力

更に詳しい参考値を知りたい場合は、図44.水稲向け参考値の赤枠で囲んだ窒素の値を変更し、青枠の「参考値を更新」ボタンをクリックすると診断結果に反映される。

施肥診断結果

1.堆肥施用量

重量(t/10a)	容積(m ³ /10a)
0.5 _t	1.0 _{m³}

2.化学肥料施用量(kg/10a)と代替率

	窒素	リン酸	カリ
基 肥	1kg	2kg	0kg
追 肥	kg	—	kg
堆肥による化学肥料代替率	—%	—%	—%

標準品質米を栽培するにあたり、あなたの入力した堆肥は、10aあたり[0.5]tの堆肥の施用が目安量となります。堆肥の施用だけでは不足する肥料成分について、窒素は[1]kg、リンは[2]kg、カリウムは[0]kgの化学肥料を施肥することで標準品質米の施肥基準を満たすこととなります。

3.参考（化学肥料の施肥量）

成分	窒素	リン酸	カリ	肥料の施肥量
基 肥	<div>14.0 %</div>	28%程度	0%程度	23kg/10a
追 肥	<div>17.0 %</div>	—	0%程度	6kg/10a

参考値を更新

堆肥の腐熟が十分に進んでいない場合、窒素肥効の発現が遅れる場合があります。
作期が短い場合は注意して利用しましょう。

図44.水稲向け参考値

参考値

窒素(基肥)

肥料の施肥量の窒素(基肥)を数値(単位は%、最大4ケタ以内)で入力する。
なお、初期画面では窒素(基肥)として「14.0%」が入力されている。

窒素(追肥)

肥料の施肥量の窒素(追肥)を数値(単位は%、最大4ケタ以内)で入力する。
なお、初期画面では窒素(追肥)として「17.0%」が入力されている。

診断結果と参考値の確認が出来たら一連の「水稻向けたい肥ナビ!」の施肥診断作業は完了となる。

図45の赤枠で示す「ホーム」ボタンをクリックするとトップページに戻る。

施肥診断結果

1.堆肥施用量

重量(t/10a)	容積(m ³ /10a)
0.5 _t	1.0 _{m³}

2.化学肥料施用量(kg/10a)と代替率

	窒素	リン酸	カリ
基 肥	1kg	0kg	0kg
追 肥	kg	—	kg
堆肥による化学肥料代替率	—%	—%	—%

標準品質米を栽培するにあたり、あなたの入力した堆肥は、10aあたり[0.5]tの堆肥の施用が目安量となります。堆肥の施用だけでは不足する肥料成分について、窒素は[1]kg、リンは[0]kg、カリウムは[0]kgの化学肥料を施肥することで標準品質米の施肥基準を満たすこととなります。

3.参考（化学肥料の施肥量）

成分	窒素	リン酸	カリ	肥料の施肥量
基 肥	<input type="text" value="14.0"/> %	0%程度	0%程度	23kg/10a
追 肥	<input type="text" value="17.0"/> %	—	0%程度	6kg/10a

参考値を更新

堆肥の腐熟が十分に進んでいない場合、窒素肥効の発現が遅れる場合があります。
作期が短い場合は注意して利用しましょう。

結果を
メールに送る

印刷する
(A4サイズ)

🏠 ホーム

◀ 戻る

図 45.水稻向けたい肥ナビ完了